

NIC あれこれ探検隊

このコーナーでは、日ごろあまり表に出ることのないNICの事業やボランティアスタッフの活動などをご紹介します。みなさんの知らなかったNICのあれこれを見つけてみてください。

交流イベントはぜひNIC貸し施設で

名古屋国際センター(NIC)では、別棟ホール・会議室(6部屋)・展示室(3部屋)・研修室(3部屋)・和室の貸出(有料)を行っています。ビジネス利用のほか、サークル活動、国際交流イベントなど、様々な用途にご利用いただいています。今回は、NIC貸し施設ならではの、国際交流団体や在住外国人による利用についてご紹介します。

別棟ホールでは、この地域で活動する国際交流団体によるフェスティバルが毎年開催され、フィリピン、ハンガリーやインドネシアなど各国の文化や料理を楽しみながら、この地域で暮らす外国人と交流できる機会とあって、多くの方で賑わいます。

また、名古屋市内で増加傾向にあるネパール人のコミュニティによる利用も増えており、これまで新年会やネパール映画の上映会のほか、TEEJ(ティーズ)と呼ばれ

る女性のためのお祭りが開催され、色鮮やかな民族衣装を身にまとったネパール人の姿を目にすることもあります。

さらに、外国人が主催するミーティングやカルチャー教室等での定期利用もあり、中国出身講師による気功教室、英語教師が集まる勉強会、日本の風景をテーマとした写真展等も開かれ、NICの貸し施設が国籍等の垣根なく、交流の場としても多くの方にご利用いただいていることに、地域の国際化推進に取り組むNICの担当職員としてうれしく思います。

一般参加が可能な国際交流イベント等は、NICウェブサイトで案内しています。ぜひNICに足をお運びください。



▲展示室での気功教室

NIC貸し施設は、1年前から予約を受け付けています。ミーティングやイベントの会場をお探しの方は、お気軽にお問い合わせください。

☎ 総務課(貸し施設担当) ☎052-581-5679 (予約受付9:00~17:30)

ぶらり ライブラリー

特に目的があるわけではないけれど、ぶらっと来てみたら、気になることに出合える場所。このコーナーではNICライブラリーと、ライブラリーの本をご紹介します。

NICライブラリー 名古屋国際センタービル 3階 9:00~19:00 月曜休館

教育と民主主義

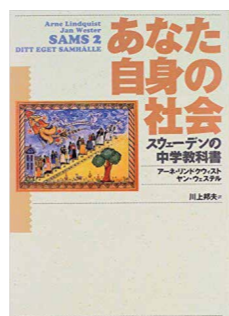
スウェーデンは投票率が高く、2018年の国政選挙では87%を越えたそうです。若者も自分の意見をしっかり持つと言われていて、スウェーデンの若者が、どのように社会の一員としての自覚を確立していくのかに興味があり手に取った本です。

スウェーデンは多くの国と同様法治国家ですが、社会の事柄が法律で運営されること、法律は権利を与え、義務も課すことを早い段階から教育します。法律を知っていることはすべての人の義務であり、法律が多いから知らなかったということがその責任や刑罰をまねがれる理由にはならないことも教えます。

この本はスウェーデンの国民が13歳から成人に達するまでの各年齢で法的に可能になること、そしてその年齢になると負う責任について具体的に紹介しています。どの章にも学んだことに対する課題があり、自分

の意見をまとめたり、制度の盲点や危険性を考えさせる構成になっています。こうして自分の置かれた立場で様々なことを考える機会を十分に与え、時間をかけて話し合うことで、法律や制度が押しつけではなく、皆が納得し、合意の上で成り立っているという感覚を育むのかもしれないと感じました。

一人ひとりの貢献と参加を社会の土台とすることで多様性を担保し、柔軟で包容力のある社会を保ち、民主主義を実践する。この長期的な展望に基づいて行われているスウェーデンの教育を垣間見ることが出来ます。



「あなた自身の社会」

クイズ Q.スウェーデンの成人は何歳からでしょう。

NIC レポート

書き損じはがきをご寄付いただきました

下記団体より、NICが事務局を務める「世界寺子屋運動」名古屋実行委員会へ、書き損じはがきのご寄付をいただきました。ご協力いただきました皆さまに御礼申し上げます。ありがとうございました。



日本労働組合総連合会

愛知県連合会
(連合愛知)

19,535枚(約92万円相当)



日本郵便株式会社

名古屋市南部地区連絡会・同北部地区連絡会・同中部地区連絡会・西尾張地区連絡会・中尾張地区連絡会・知多地区連絡会・西三河地区連絡会・東三河地区連絡会

49,883枚(約234万円相当)



世界寺子屋運動
KARIYA実行委員会

事務局：刈谷市社会福祉協議会

18,025枚(約85万円相当)

書き損じはがきキャンペーンとは



書き損じたり、汚れたり、余ってしまったはがき(ポストに投函していない通常はがき、年賀状)を集め、途上国の識字教育を支援しています。例えばカンボジアでは、書き損じはがき11枚で1人が1か月間、学校に通える資金になります。未使用切手も集めています。ご協力、よろしくお願いたします。

☎ (公財)名古屋国際センター交流協力課内
「世界寺子屋運動」名古屋実行委員会事務局 ☎052-581-5691 詳しくはこちらをご覧ください。▶



多民族国家オーストラリアに学ぶ モナシュ大学主催ワークショップ@NIC

4月22日、名古屋国際センターで、ワークショップ「多文化背景をもつ若者と自己表現～オーストラリアの実践者を迎えて～」が開催されました(主催:モナシュ大学(オーストラリア)、共催:NIC、後援:一般財団法人自治体国際化協会)。モナシュ大学教授の岩淵功一氏が企画し、ビクトリア州メルボルンの移民博物館のプログラム・コーディネーターであるジャン・モロイ氏と、小説家のアリス・ブン氏を迎え、多民族国家オーストラリアにおける取組事例を紹介しました。

ジャン氏によれば、ビクトリア州の住民の4割以上が「本人または親が国外で生まれた」という多文化背景を持っているそうです。異文化の中に育つ若者は、時に自分の帰属意識について悩みを持つことがあります。移民博物館は、地元の音楽家や小説家などによるワークショップを行い、様々な形の自己表現によって若者の文化的多様性を奨励しています。

アリス氏による「アイデンティティと向き合うワークショップ」は、自分の家の食卓について絵や文章で表現するという内容でした。参加者は「ブラジルに住んでいた幼いころ、家族の食事は古い日本のルールを厳格に守って

いて、年長者の曾祖父が箸をつけるまでは誰も食事を始めることができなかった。でも大家族での食事は楽しかったし、料理はブラジル料理も並んでいた。」(日系ブラジル人参加者)、「祖父は沖縄出身なのでペルーでは日本料理として沖縄料理を食べていた。自分は日本で生まれた息子にペルー料理を食べさせている。」(日系ペルー人参加者)など各々のエピソードを語り、ルーツを振り返りました。また、両親がカンボジア難民であるアリス氏は、食事をきっかけに、父親が大虐殺時代の飢餓体験を冗談交じりに話していた風景を思い出すことを話し、「食」という素材から記憶をひも解き、言葉や絵で共有する作業によって、自身のルーツと向き合うことができます」と語りました。

グローバル化が加速する時代、ルーツやアイデンティティを一つに絞る必要はなく、多文化の中で生きること自信を持てるような社会を目指したいと感じるワークショップでした。



▲アリス氏(中央)のワークショップの様子